

尾瀬ネットワーク通信

2005年5月20日 VOL8. 2(23) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

2005年度定期総会特集

2005年4月16日、大宮ソニックシティにて総会が開催されました。

開会宣言のあと、議長（磯部氏）議事録署名人2名（島上氏、牛木氏）選任のあと、巻頭に掲載した高橋理事長の挨拶があり、次いで各担当理事より2004年度の活動報告、会計報告及び深山監事の会計監査報告があり、各担当理事より提案された2005年度活動方針案、予算案が承認され、高橋理事長より一部理事の交代、椎名事務局長よりJATAの助成金の報告があり、総会の議案が全て滞りなく終了しました。

総会議事終了後、尾瀬、富士見小屋主人より「尾瀬で生まれ、尾瀬を愛して」と題して本文に掲載した特別講演があり、総会参加者に深い感銘を与えました。（島上）



定期総会受付風景

新たな展開を目指したい

～2005年度定期総会のあいさつ要旨～

理事長 高橋 喬

入山者激減と尾瀬

周知のように尾瀬の入山者数が激減している。平成8年、9年の両年度には60万人超を記録したものの、その後は減少の一途をたどり、04年度には30万人台とピーク時のほぼ2分の1に落ち込んだ。その確かな原因は不明だが、おそらく、一時的な百名山ブームが去ったこと、首都圏を中心とした中高年者層の尾瀬入山が一巡したこと、登山やトレッキング、ハイキングの対象に海外の山岳を選択する日本人が増えたことなどが影響していると思われる。

事実、昨年の総会で報告したマレーシアの「キナバル山」で一緒になった東京の夫妻は「日本百名山はすべて登ってしまったので、世界遺産

を巡ることにした。キナバル山はベトナムの山に次いで2番目」と語っていた。また、あたかも定期便のように毎週、ヨーロッパアルプスやヒマラヤに向けて、成田からツアー客を運んでいることを考え合わせると、もはやミズバショウやニッコウキスゲだけで人を集めるのは難しいと思われる。

このような現象は、尾瀬の自然にとっては好ましいわけであるが、尾瀬の入山客に生計を依存している多くの民宿や山小屋にとっては大きな打撃であり、これについては同情を禁じえない。しかし、こうした事態が今後、尾瀬の利用のあり方にどのように影響を及ぼしてくるのか、慎重に見守っていく必要があるだろう。

財政問題を視野に

入山者数の大幅な減少を受けて、われわれネットワークの活動の方向も、少しずつ軌道修正が必要になるであろう。もちろん、発足当初から、あるいは途中から開始して今日まで続けている、フィールドや会津バス添乗による自然解説、駐車場を中心としたアイドリングス

トップの呼びかけ、 至仏山東面登山道調査、 尾瀬ヶ原シカ調査、 指導員養成講座...など いずれも重要であり、あと2～3年で終了が見込まれる調査活動を除いては、当然、継続していく必要があると思う。



総会スナップ・中央が高橋理事長

一方、こうした活動を支えている財政問題も、絶えず念頭に置かなければならない。ネットワーク発足以来、現在も続けていただいている OMC カード(緑の地球防衛基金)の助成金は、残念ながら 07 年度までと決定している。OMC カードによる活動費の助成がなかったら、NPO 法人化の計画、承認申請はもとより、ネットワークそのものの存亡にすらかかわったと言えると思う。したがって、08 年度以降のすべての活動費は、OMC カード以外に助成を受けた実績のある全労災や日本旅行業協会 (JATA) の助成のように、単年度の助成金をいかに取り込んでいけるかが非常に重要になってくる。

事実、多くの NPO 団体 (6 割とも 7 割ともいわれる) が資金難に苦しみ、実際の活動に支障を来している団体も少なくない指摘されている。とはいえ、単年度扱いの助成金を獲得するのは容易ではなく、これまで毎年のように複数の申請をしてきた経験から言うと、全労災や JATA の助成金を得られたのは、むしろ僥倖だと思っている。

自助努力が重要に

助成金の申請は今後も機会を捉えて継続していく方針だが、当然、自助努力を地道に積み上げていくことも肝要だと思っている。

その 1 つは、言葉は悪いが会員の勧誘である。現在 (4 月 15 日) の会員数は 66 名であるが

会費に換算すると 20 万円に満たない額である。ただし、予算を策定するうえで確実に勘定に入れることが可能な収入である。会員 1 人が会費を 1 人ずつ増やせば会費も倍増する。とくに初年度は入会金も計上できるので、実際には 3 倍増になる計算である。すでに家族会員も何人かいるので、他人事として傍観するのではなく、自分たちのネットワークなのだから、生保業界ではないが、まず家族から口説いて入会を勧めてほしい。

また、企業など賛助会員の勧誘に向けても必要なので、個人会員にも共通の趣意書などを作成したいと考えている。

もう 1 つは、皆さんの賛同が得られれば、エコツーリズムの気運が盛り上がりつつあるのを受けて、有料ガイド活動を検討してみたい。JATA の中に「旅行業ツアー登山協議会」が発足し、本年 1 月 1 日からツアーに同行する引率者 (ガイド、講師、TD など) の「ガイドレシオ」(ツアー参加者に対する引率者の割合) を改定した。これは中高年のハイカーや登山者の増加に比例して「事故」も増える傾向にあるため、次のような基準を設定している。

- 1) 入門・初級コース = 客 15 ~ 16 名に対しガイド 1 名
- 2) 中級コース = 客 12 ~ 13 名に対しガイド 1 名
- 3) 上級コース = 客 11 名に対しガイド 1 名以上

この基準は、昨年の総会でお話したキナバル山での入山者 1 ~ 8 名にガイド 1 人、9 ~ 16 名は 2 人といった基準に比べればまだ甘いかもしれないが、大きな前進であることは確かであり、評価に値するであろう。

JATA の「ガイドレシオ」改定をビジネスチャンスとして捉えたい。幸いネットワークには、全国修学旅行研究協会の尾瀬研修旅行を 2 名ないし 3 名で案内してきた実績がある。このノウハウを活用して、有料ガイドの派遣を前向きに検討したい。ご賛同が得られれば専門部会を設けて、早速、具体策を煮詰めていきたい。なお、個人的な考えでは、ガイド料の一部は担当者に還元することとしたい。

おわりに

最後に、毎回、同じことをお願いするが、せ

っかく自然保護指導員になったのだから、現地での活動に参加してほしい。「話し下手でとてもバス添乗解説など」という人にもできる活動を用意して待っている。現地での活動後に地酒でも酌み交わしながら、活動の方針や内容について話し合ったり、お互いに理解を深め合ったりするのもいいと思うのだが・・・。

尾瀬で生まれて 尾瀬を愛して

～富士見小屋主人が特別講演～

05年度総会の特別講演は、富士見峠にある富士見小屋ご主人、萩原 始氏にお願いした。尾瀬周辺の片品村や桜枝岐村で生まれた山小屋関係者は多いが、尾瀬ヶ原のど真ん中で産声をあげたのは、この人だけである。下界で生まれ、育ったわれわれにはうかがいしれぬ真冬の尾瀬での幼時期の生活を中心に、貴重なお話を聞かせていただいた。その一部を紹介する。

(高橋 喬)

父が関東水電（東電の前身）でダム建設の予備調査に従事していたため、私は3人きょうだいの中でただ1人、尾瀬ヶ原1番地で誕生した。景鶴山の下（与作口）に仮小屋を建て、川の水位や降水量、気温、積雪量などを尾瀬ヶ原の何カ所かで観測・記録するのが父の役目だった。越冬をしたため尾瀬で生まれる羽目になった。70年前のことである。その頃は尾瀬に来るハイカーなどいなかったし、もちろん、テレビもラジオもない。灯りはランプで、毎日が雪との闘いだった。



富士見小屋主人 萩原 始氏

来る日も来る日も、現在のヨッピー橋のところで水位観測や東電小屋の樹林帯を超えたあたりでの気温観測など、原の東西南北での観測に明け暮れた。冬は雪の量が多いので、スキーやカンジキをはいても行けない日が多かった。

燃料はすべてマキだった。伐採しておいて、4月に雪虫の出る頃、小屋まで運んだ。山菜を貯えたり、ヨッピー川やヨシッポリで川魚を釣ったりの自給自足の生活だった。郵便物は月に1回か2回。越冬に必要な物質は親類が片品村から運んでくれた。

やがてダム建設の話が進んでくると、十字路（見晴）まで馬が入るようになり、会社の人などが入ってくるようになった。なにしろ両親以外の顔を見ない生活が続いた後、春になって人が入って来るのが嬉しかった。

ダムとしての尾瀬ヶ原の機能を調査するための観測を続ける一方、貴重な自然の調査も行われた。専門家が何日間も泊りがけで入り、至仏山などで高山植物を採集し、ザックと胴乱（ドウラン）に入れ、かごで運び下ろす。それを小屋のランプの下で分類するのを見ていた。こうした作業は東電小屋が小屋らしくなるにつれて活発化していった。「尾瀬が水没してなくなる」という思いが植物専門家を作業に駆り立てたのであろう。

道も橋もない尾瀬に東電小屋ができてから道ができ、東電橋と八木沢橋ができて便利になっていった。ハイカーも少しずつ入るようになって、山小屋も増えていった。沼尻川の水位観測に出掛ける父親に連れられて、長蔵小屋に泊まるのが楽しみだった。人の顔が見られ、人の声が聞こえる……。現在の尾瀬からは想像もできない時代だった。

富士見小屋は戸倉にいた祖父が昭和11年に建てたのが前身で、尾瀬で釣りを楽しむための基地のようなものだった。ここに泊まりたい人が多かったため、翌年、正式に山小屋としてオープンした。それまで戸倉と東電小屋に住んでいた家族が、富士見小屋を入れて3カ所に分かれて住むようになった。

片品村の小学校に入ると、休みに尾瀬に戻るのが楽しみだった。家庭でも、学校でも自然を学び、自然の中で遊び、自然を守ることを体で覚えた。

ここ10数年、尾瀬でも環境問題が起こっているが、これからも尾瀬を愛しながら、尾瀬の自然と共存して生活していきたい。それが、私を育ててくれた尾瀬へのせめてもの恩返しだと思っている。

2005年度活動計画

総会にて承認された本年度の現地活動、調査、及び養成講座の日程は次の通りです。会員、特に指導員となって現地活動を経験されていない方々は理事長が冒頭の挨拶で述べられているようにこの機会に是非、現地活動に参加して下さるようお願いいたします。

福島側活動計画 (担当理事：磯部、佐藤)

会津バス添乗解説、及び裏燧入山口、尾瀬沼周辺での定点指導、アイドリングストップ等の呼びかけの実施並びに御池、沼山の駐車場付近及び登山道のゴミひろい等の清掃活動等。

活動日程

- 第1回 5月27日(金)～29日(日)
- 第2回 6月17日(金)～19日(日)
18日(土)はゴミひろい一斉行動日
- 第3回 7月16日(土)～18日(月)
- 第4回 7月22日(金)～24日(日)
- 第5回 9月17日(土)～19日(月)
第5回は...御池～裏燧林道～尾瀬ヶ原～三条の滝～渋沢温泉小屋(泊)～御池...コース・秋の研修会

群馬側活動計画 (担当理事：坂本、清水)

昨年度と同様、尾瀬ヶ原及び山の鼻を中心に入山指導、自然解説及びステッカーの配布を行い自然環境の保護等の啓蒙活動を行う。同時に福島側とタイアップし、クリーン作戦(ゴミひろい等)を実施する。

活動日程

- 第1回 6月24日(金)～26日(日)
- 第2回 9月2日(金)～4日(日)

尾瀬ヶ原シカ調査 (担当理事：坂本)

- 第1回 6月25日(土)夜半
- 第2回 9月3日(土)夜半

尾瀬自然保護指導員養成講座

(担当理事：永島)

- 室内研修 7月23日(土) 東京
- 現地研修 8月26日(金)～28日(日)
尾瀬

至仏山東面登山道調査

(担当理事：永島)

9月9日(金)～10日(土) 戸倉「一仙」泊

役員の変動 (4月16日)

- < 退任 > 理事 山本 誠剛氏 (群馬県)
理事 若松 真氏 (東京都)
- < 就任 > 理事 清水 博之氏 (群馬県)
理事 赤塚 耐三氏 (東京都)

今回退任される山本氏は群馬側入山指導の責任者として、若松氏は会のホームページ及び会報編集担当として、会発足以来活躍され会の発展に大きく寄与されました。永いこと有難うございました。心から感謝申し上げます。

また、新任の清水氏は山本氏の後任として群馬側入山指導を、赤塚氏は会の財政を、それぞれ担当され、今後の活躍が期待されます。なお、会員東雲明氏が新しくHPを担当します。

新入会

坂井 芳子さん (千葉市)
桑畑 良香さん (同)
白井 智恵子さん (同) 以上3名の方々が新しく私どもの仲間入りしました。



2005年度会費納入のお願い

会計担当理事：大橋 文江

総会で高橋理事長が挨拶で述べたように、会員の会費収入は会の財政を支える基本をなすものです。まだ、2005年度会費を未納の方は出来るだけ早く同封の振込用紙により、会費を納入して下さるようお願いいたします。

年会費：3000円

保険料：1500円 (希望者のみ)

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク
〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内
電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

http://www.geocities.jp/oze_net/

(ホームページアドレスが変わりました)

理事長 高橋 喬
事務局長 椎名 宏子
編集担当 島上 健
HP 担当 東雲 明

